

1. 待ったなし！温暖化対策

～京都議定書目標達成に向けて～

◇地球温暖化のしくみ

地球は、太陽からのエネルギーで暖められます。暖められた地球からも熱が放射されます。地球の表面には窒素や酸素などの大気を取り巻いています。この大気に含まれる二酸化炭素などの温室効果ガスは、この熱を吸収し、再び地表に戻しています。そのおかげで、地球の平均気温は15℃と、人間をはじめ生物が生きるのに適した環境が保たれています。しかし、人類が石炭や石油などの化石燃料を大量に燃やした結果、大気中の二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が急激に高まり、気温が上昇することになり、気候の変化、自然環境への影響だけでなく、人間社会へも大きな影響をもたらします。



温室効果ガスと地球温暖化メカニズム

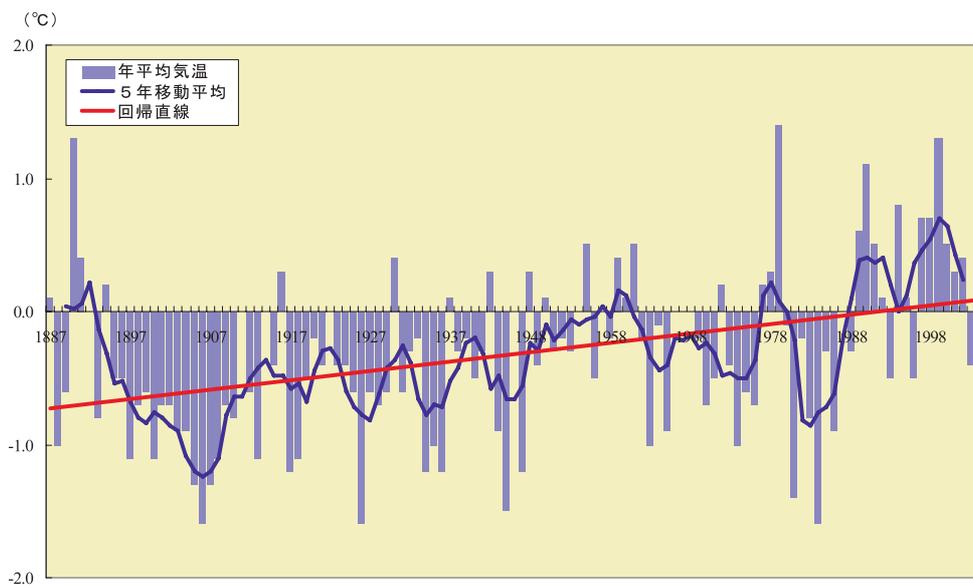
出典：全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより

(<http://www.jccca.org/>)

◇温暖化の影響

地球の平均気温は、この20世紀の100年間で約0.6℃上昇しており、今後も温室効果ガスが増え続けると、21世紀末までに平均気温が最大で5.8℃上昇し、氷河が溶けたりして、平均海面水位も最大88cm上昇すると予測されています。

我が国も、20世紀の100年間に平均気温が1℃しています。また、一方、銚子地方気象台における1887年以降の年平均気温の推移を示したものが下のグラフであり、銚子市においては20世紀初頭まで気温の下降傾向を示していましたが、それ以降の100年間で約1℃の上昇となっており、我が国の平均気温と同様の上昇となっています。



銚子地方気象台における年平均気温の年差の推移



ナガサキアゲハ。メス。

台湾や中国南部、国内では九州、紀伊半島などに生息する。近年、関東地方でも発見が相次いでおり、地球温暖化との関係が指摘されている。(資料提供：伊丹市昆虫館)

地球温暖化による自然環境などへの影響では、日本でもオホーツク流氷の減少、サクラの開花が最近50年間に全国平均で4.2日早くなるなど植物開花時期の早まり、動植物の生息域移動などの兆候が観測されています。また、海水温の上昇によるサンゴ礁の白化現象も問題となっています。このまま温暖化が進行すると、海面の上昇などにより私たちの健康や動植物などの生態系にも甚大な影響が生じることになります。

海面水位の上昇による地域の侵食

赤潮や干ばつなど異常気象の増加

農業生産や水資源への影響

マラリヤなど熱帯性感染症の増加

生態系の変化による種の絶滅

◇地球温暖化を防止するためのとりくみ

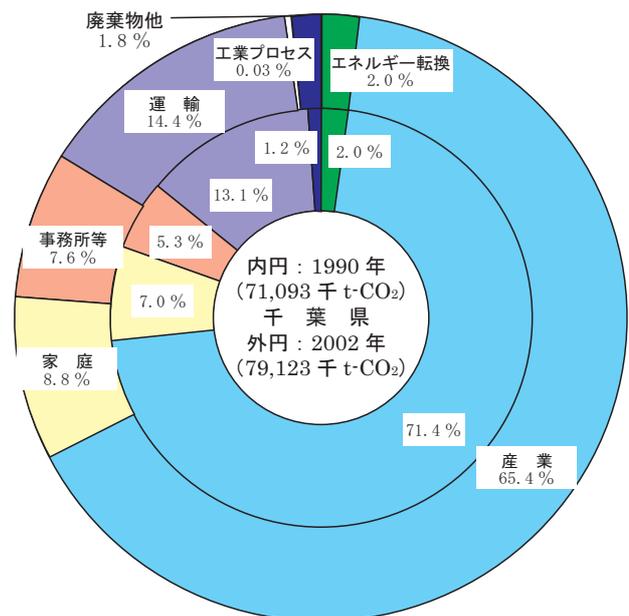
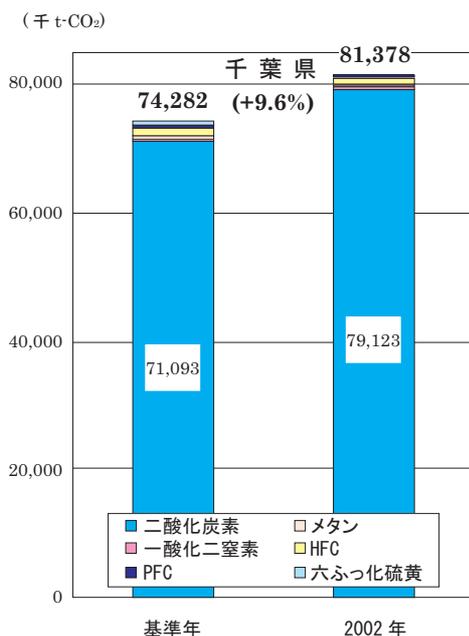
国際社会においては地球温暖化防止に対処するため、9年12月の地球温暖化防止京都会議において、温暖化の原因となる二酸化炭素等の温室効果ガスに対する先進国の削減目標が「京都議定書」として採択され、17年2月16日に発効しました。

京都議定書の削減目標の概要

対象ガス	①二酸化炭素②メタン③一酸化二窒素④ハイドロフルオロカーボン（HFC） ⑤パーフルオロカーボン（PFC）⑥六ふっ化硫黄（SF ₆ ）
基準年	1990年（HFC、PFC、SF ₆ は1995年）
目標期間	2008年から2012年（第一約束期間）
削減目標	先進国全体として、少なくとも5.2%削減する [国別目標]日本：6% 米国：7% EU：8% ロシア：0% カナダ：6% 等

我が国では、京都議定書の6%削減約束を確実に達成するために必要な措置を定めた「京都議定書目標達成計画」が17年4月に策定されました。

◇県内の温室効果ガスの排出状況



温室効果ガス排出量の移り変わり

2002年における温室効果ガス排出量は81,378千トン（二酸化炭素換算）で基準年の74,282千トンから9.6%の増加となっています。また、温室効果ガスの97%以上を占める二酸化炭素の部門別排出量の推移は円グラフのとおりであり、排出量では産業部門からが全体の約3分の2を占めており、また、伸び率では産業部門はほぼ横ばいなのに対して、事務所（基準年に比べ2002年では60%の伸び）や家庭（同39%）からの伸び率が大きくなっています。

部門別二酸化炭素排出量の移り変わり

◇県のとりくみ～京都議定書の第一約束期間まであと数年～

県では、12年に策定した「千葉県地球温暖化防止計画」を改定し、温室効果ガス削減目標を総量ではなく、わかりやすく、かつ、取り組み状況が実感しやすいように、家庭や事務所などの主体ごとに設けるなど、一層の温暖化防止対策を進めます。

－計画の削減目標－

【家 庭】

- ◆2010（平成22）年において、家庭1世帯当たりのエネルギー使用量（電気、ガス、灯油）を2002（平成14）年から10%削減する
- ◆2010（平成22）年において、自家用自動車1台当たりの燃料使用量を2002（平成14）年から10%削減する
- ◆2010（平成22）年において、1人当たりのごみ（一般廃棄物）排出量を2002（平成14）年から概ね10%削減する

【事務所等】

- ◆2010（平成22）年において、事務所等の床面積1㎡当たりのエネルギー使用量（電気、ガス、燃料油等）を基準年から5%削減する

【運 輸】

- ◆2010（平成22）年において、貨物自動車1台当たりの燃料使用量を2002（平成14）年から5%削減する

【製 造 業】

- ◆2010（平成22）年において、化学工業における製造品出荷額等当たりのエネルギー消費量を基準年から10%削減する
- ◆2010（平成22）年において、石油精製業における製油所当たりのエネルギー消費量を基準年から10%削減する
- ◆2010（平成22）年において、鉄鋼業における粗鋼生産量当たりのエネルギー消費原単位を基準年から10%削減する
- ◆2010（平成22）年において、化学工業、石油精製業、鉄鋼業以外の製造業における製造品出荷額等当たりの二酸化炭素排出原単位を2002（平成14）年から10%削減する

◇地球温暖化を防止するための身近なとりくみ

限りある地球の資源を「大切に、じょうずに」使うことを常に考え、地球にやさしいライフスタイルに変えていく必要があります。皆さんもできることからはじめてみてください。

電気使用量を10%削減する取組みメニューの例（年間） ⇒ 約8,700円の節約

（1世帯あたりの電気使用量削減の目安は二酸化炭素換算で146kg/年）

電気使用量の削減メニュー例①	1年間の削減の目安	節約金額の目安
不要な照明はこまめに消す	2 kg-CO ₂	120円
テレビをつけっぱなしにしない	17 kg-CO ₂	900円
冷房（エアコン）の使用時間を1日1時間短縮する	8 kg-CO ₂	410円
暖房（エアコン）の使用時間を1日1時間短縮する	16 kg-CO ₂	900円
電気カーペットの使い方を工夫する	36 kg-CO ₂	1,980円
こたつの使い方を工夫する	13 kg-CO ₂	710円
家電製品を使わないときはコンセントからプラグを抜く	68 kg-CO ₂	3,670円
合 計	160kg-CO ₂	8,690円



地球温暖化防止シンポジウム（意見交換風景）